



新型コロナウイルスによる 病院運営への影響調査

～ 回復期リハ病棟を有する病院への影響 ～

一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会

令和 2年 8月 24日
調査検証委員会



基本情報

Slide-No.1

【 調査方法 】

対象施設	当協会 会員病院： 536 病院 （回収：82 病院 15.3 %， 有効回答：80 病院）
調査期間	2020年 8月 4日 ～ 8月 15日
デザイン	メール配信・回収によるアンケート調査（Excel調査票への記入）
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 病院全体の医業収益・医業費用・ 回復期リハ病棟等の医業収益・ 回復期リハ病棟等の入院患者動向 等

【 回答病院属性 】

n=80	病院数	割合
一般病棟	33	41.3 %
回復期リハ病棟	67	83.8 %
地域包括ケア病棟・病床	27	33.8 %
療養病棟	24	30.0 %
その他	20	25.0 %



【 分析対象 】

n=67	病院数	割合
単科 (回復期リハ病棟のみ)	21	31.3 %
一般なし (回復期リハ病棟 + 療養病棟等)	21	31.3 %
一般あり (回復期リハ病棟 + 一般病棟)	25	37.3 %

※ 回答病院にて、新型コロナウイルス陽性患者の受入れはなし



結果① 病院全体 医業利益率

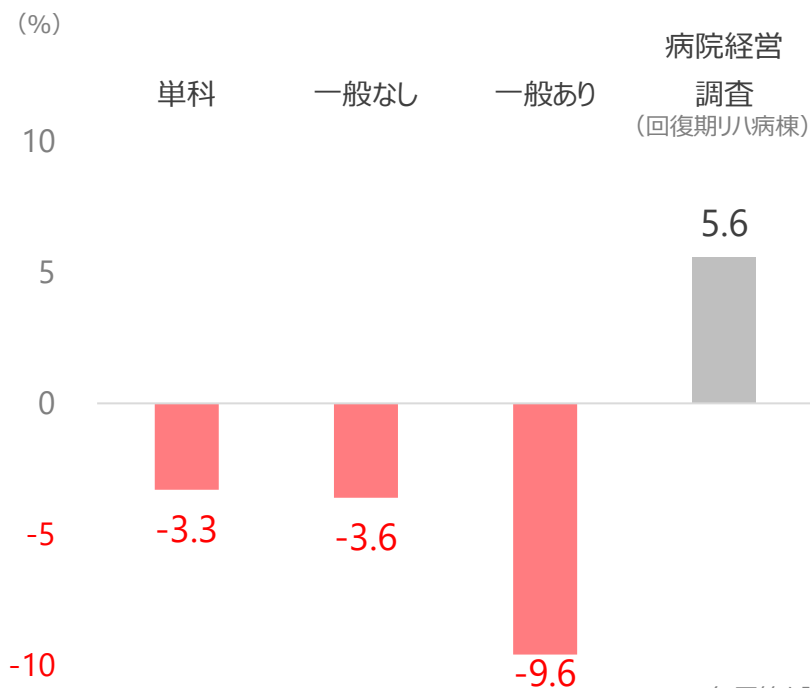
Slide-No.2

単科(n=13)：回復期リハ病棟のみ

一般なし(n=15)：回復期リハ病棟+療養病棟等（一般病棟を除く）

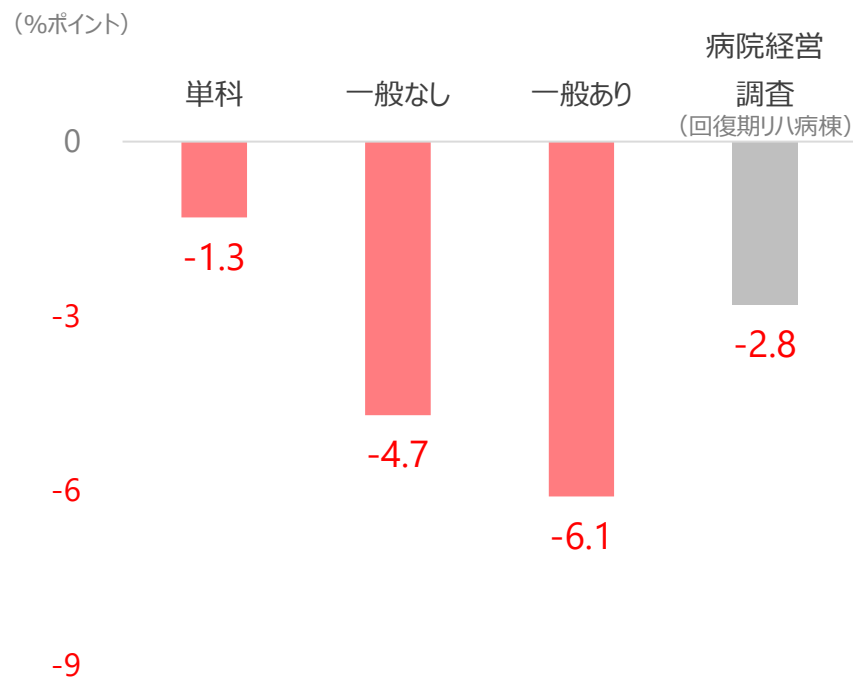
一般あり(n=23)：回復期リハ病棟+一般病棟

医業利益率 6月



※ 無回答を除く

医業利益率 6月（前年比）



※ 無回答を除く

〔病院経営調査〕 出典：新型コロナウイルス感染拡大による病院経営状況の調査，全日本病院協会・他，2020.8.6

回復期リハ病棟を有する病院の特徴に関わらず、病院全体の医業利益率はマイナスであった。また、一般病棟を有する病院では、マイナス幅が大きかった。



結果② 回復期リハ病棟 入院患者数

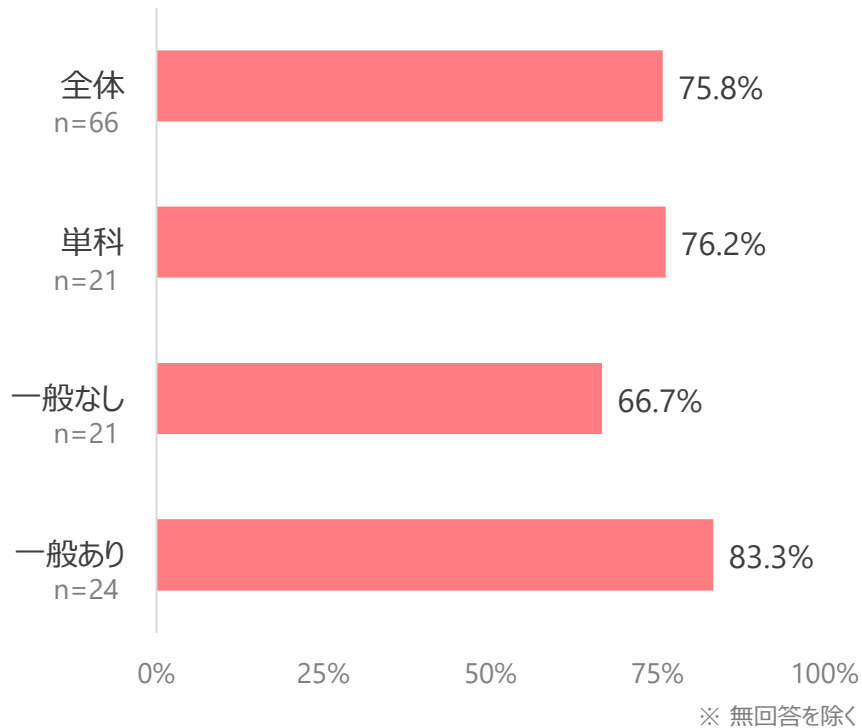
Slide-No.3

単科：回復期リハ病棟のみ

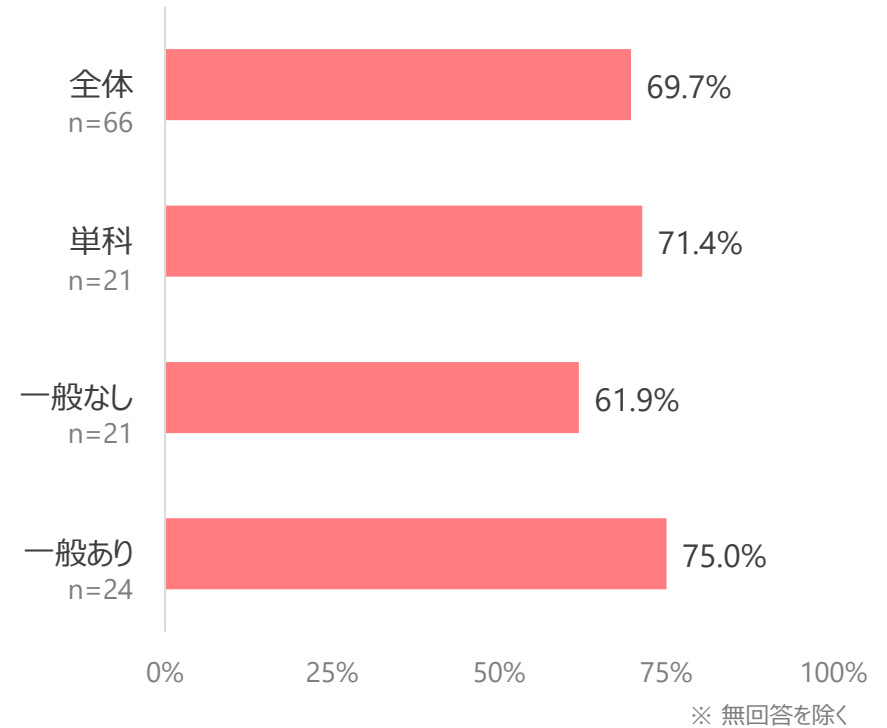
一般なし：回復期リハ病棟＋療養病棟等（一般病棟を除く）

一般あり：回復期リハ病棟＋一般病棟

延べ患者数 減少割合（前年比：5月）



延べ患者数 減少割合（前年比：6月）



5・6月ともに、6-7割の回復期リハ病棟にて延べ患者数が減少していた。



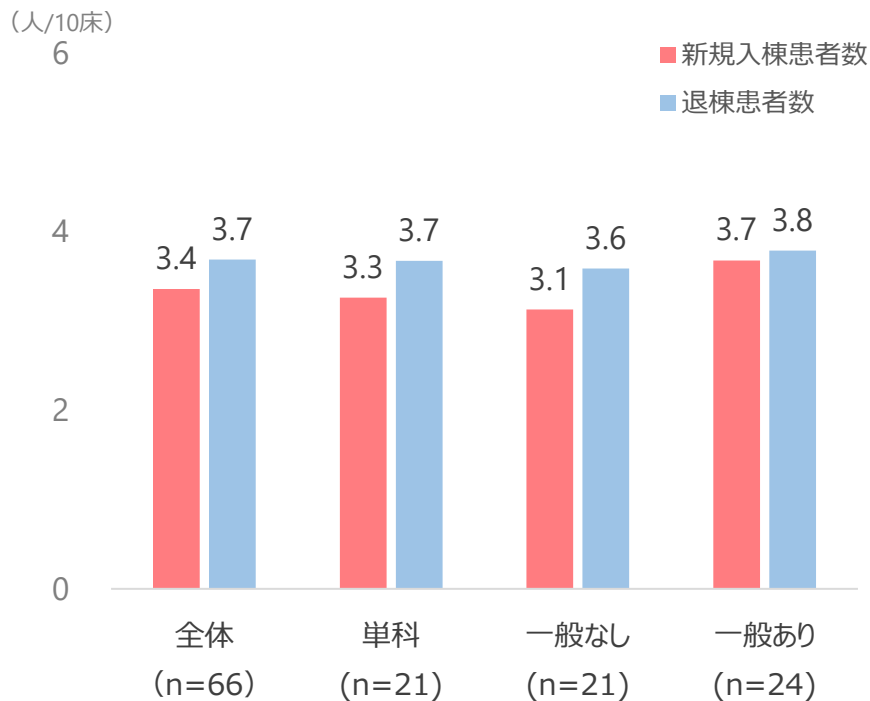
結果③ 回復期リハ病棟 入退棟患者数

単科：回復期リハ病棟のみ

一般なし：回復期リハ病棟＋療養病棟等（一般病棟を除く）

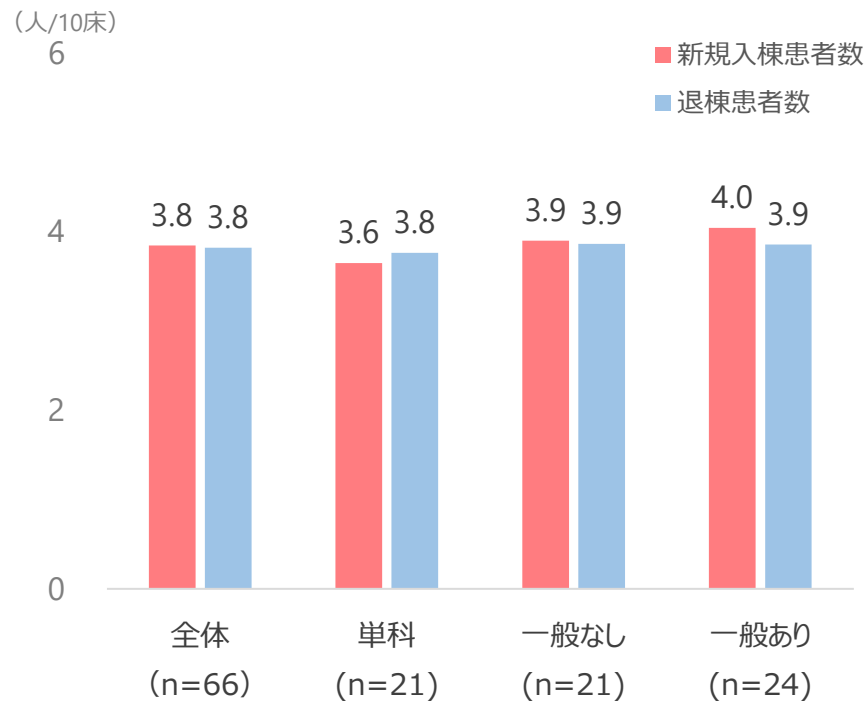
一般あり：回復期リハ病棟＋一般病棟

10床あたりの入退棟患者数（5月）



2019年5月実績：新規入棟患者数 3.9人，退棟患者数 3.9人 ※ 無回答を除く

10床あたりの入退棟患者数（6月）



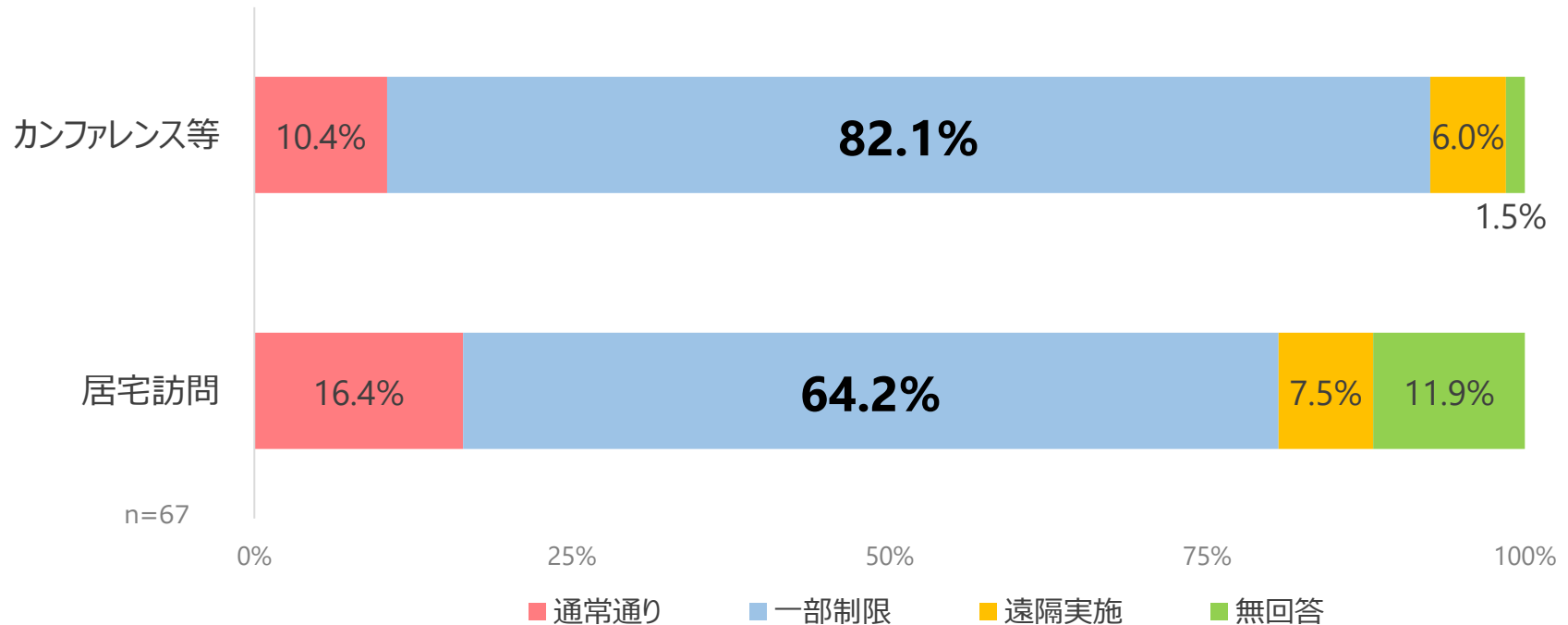
2019年6月実績：新規入棟患者数 3.5人，退棟患者数 3.7人 ※ 無回答を除く

5月は新規入棟患者数を退棟患者数が上回っていた。
6月は新規入棟患者数と退棟患者数がほぼ同数となっていた。



結果④ 回復期リハ病棟 退棟支援

退棟支援の状況



カンファレンス等および居宅訪問ともに、一部制限の割合が最も高かった。
一方で、遠隔実施(ICTの活用)の割合は、1割未満であった。



結論

- 回復期リハ病棟を有する病院の医業利益率はマイナスであり、前年比にて減少していた。減収要因としては、回復期リハ病棟の入院患者数（延べ患者数）の減少が挙げられる。
- 5月は新規入棟患者数を退棟患者数が上回っており、入院患者数の減少につながっていた。6月にて、新規入棟患者数の改善を認めるが、退棟患者数とほぼ同数であり、入院患者数の改善には至っていない。
- 退棟患者数は前年同月比にて、概ね同数であった。他方、退棟支援においては、カンファレンスや居宅訪問を一部制限している割合が高く、ICT等の活用による退棟支援の充実が望まれる。